

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202824		
法人名	有限会社 アドスコミュニティーズ		
事業所名	グループホームボブラ		
所在地	札幌市北区新川3条4丁目8-40		
自己評価作成日	平成29年1月24日	評価結果市町村受理日	平成29年3月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170202824-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成29年2月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は事業所の理念を把握し、理念を共有し実践につなげられている。全体会議やカンファレンス等の際、事業所理念を頻度に職員全員で再確認、再認識し、現場での支援内容や介護職員の在り方について話し合いを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所始め職員一同、町内との関わりをもつよう日々の挨拶や町内の行事などの参加、協力を行い、町内に事業所の存在も把握して頂けており、町内の方が運営推進会議に積極的に参加してくださっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の回覧板にポプラの広告を行い、グループホームってどんな所なのか、どんな人が入居しているのかをPRしている他、体験談やポプラでの支援方法などを町内会長はじめ民生委員・福祉部長の方にもお話す事が出来ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、町内会会長、民生委員、福祉部長さんが必ず出席され、ポプラでのサービス評価や、取り組んでいる状況などについて報告や意見交換をおこなっている事でサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者のご家族から望まれる事の中で、判断しかねそうなことなどは、市町村に連絡を取り相談をしています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為を全職員が周知出来るよう勉強会にて指導している他、当事業所にて身体拘束が不適切に行われないように努めている。危険性が高い方においての、身体拘束を行う場合は医師にも相談しご家族の同意を得て書面化し身体拘束解除に向けての検討会を行い取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は虐待防止について勉強会や事例などについて、ディスカッションを行い、虐待に当たる言葉使いやケア方法を職員が共に学び虐待が起きないように努めている。職員は抱え込まないようコミュニケーションを図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利譲渡に関する制度の理解と活用については、利用者の中で実際に活用されている事もあり、管理者、職員は施設長の方から勉強会や日常生活自立支援、成年後見制度を学ぶ機会があり、実際に弁護士及び後見人が来訪されるので話し合いは出来ています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営推進会議には、町内会長・民生委員・福祉部長さんが必ず参加されボプラで現状サービスを行っているケアを伝えることで、利用者の変化などを知って頂き意見交換をし会長が元精神科の看護師だった為アドバイスなど聞きサービス向上に活かしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に必ずご家族に近況報告を行っている。その際ご家族の意見やご要望を聞くよう努め、意見や要望などを運営に反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表や管理者は日頃より現場に入り職員に意見や提案を聞き反映させている。会議やカンファレンス等でも職員の意見や提案を聞く機会を設けており反映に活かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員一人ひとりの能力を評価し、勤務状況や労働時間の希望なども取り入れている。一人一人の能力に応じ指導し、やりがいが持てるよう日々コミュニケーションを図り環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員個人の能力を把握しており、その人、そのレベルに合った外部研修への参加を促し職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者や管理者は同業者との繋がりを持つ場があり交流を深めることが出来ているが、職員が外部へ行く機会が研修などだけになっているが相互訪問などの活動を通じてサービスの質の向上の取り組みを図る。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の時点で本人が困っている事や不安な事、要望を聞きとめ本人が安心と感じられる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階は、ご家族が相談しやすい環境、状況を作り、ご家族の立場に立って困っている・不安・要望などを傾聴し本人との関係作りも同様に焦らず信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用を開始する前には、ご本人、ご家族の意向や要望、心配になっている部分を少しでも解消できるよう話の傾聴と意向に沿えるようサービス内容の説明を十分に行い納得して頂けた上で入居して頂いている。他のサービス等の説明も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護理念にも掲げられているように、ポプラでは、介護者が一方的にならないよう職員へ指導している。利用者が気の合う人と穏やかに楽しく暮せるよう、職員と利用者の関係性も大切にしながら寄り添える暮らしになるよう日々支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	代表始め管理者や職員は、ご家族との信頼関係を大切にしながらサービスの提供をご家族と協力しあいながら利用者を支えていくよう日頃より努めている。時には家族に協力して頂く事も有ります。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にして来た馴染みの人や場所との関係が途切れないよう努めていますが、重度化している利用者が多く、人の認識や外出も、ままならないのが現状です。可能な利用者には関係の継続が出来るよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間でも関係性か孤立や確立しないように職員が常に状況を見極め、利用者間の関係性が円満で利用者が他の利用者へ、そっと声をかけながら整髪をする等、共に支え合える支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、移り住む先のダメージを最小限に抑えられるよう情報提供をし、ご家族の不安のフォローをしつつ、関係を断ち切らない取り組みをしていますが今までも殆んど移り変えが有りません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの利用者が、その人らしく暮していけるよう、それぞれの思いや希望、意向の把握は大切な事なので職員には、その人がどのように暮して来たのかを、しっかり学んで貰い、その人が人として、どうしたら利用者の視点に立てるか話し合いをして取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴を入居段階でカンファレンスなどで職員全員に周知して頂き、その人らしい暮らしが損なわれないよう話し合いと情報の共有に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の過ごし方などを職員が日々観察力をつけ、細かい事も伝達し現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、カンファレンスにて利用者の情報交換を図り、統一したケアが出きるように話し合っています。その人の課題をご家族含め意見しあいながら現状に即した介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で細かい気づきや工夫、変化などを業務日誌にて情報を共有している。又、職員間でのコミュニケーションの中で様々なアイデアも生まれ実践に活かしながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人がその時、必要なサービスを提供できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らし、楽しむ事が出来るよう地域包括との協働、訪問美容、消防、病院関係、町内の知的障害者作業場、デイサービス、サロンを把握し地域の人の力や場を借りれる取り組みを行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と事業所、ご家族は本人の希望を大切に、納得して医療の提供が受けられるよう支援しています。医師の熱意が厚く用事が無い時でも顔を出してくれています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が日々の中で利用者の変化など、気付いた時は速やかに職員間で相談し、訪問看護師や医師に伝達し指示を頂き、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられる支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、情報提供と環境が変わる事のダメージを最小限に抑える為に、入院先との医療関係者と情報交換や話し合いを行い、早期退院できるよう関係作りに努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいます。	契約時に終末期の話も行い、重度化し、終末期に近づいた時は段階を踏み、医師、施設、ご家族、本人（状況にもよる）含め今後の意向などを含め話し合う場を設け、意思、確認を行い意向に沿えるようチームワークで支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々、利用者の状態を観察しながら、カンファレンスにて、予防対策を行い、職員がしっかり把握し、急変や事故発生時に焦らず迅速な対応ができる力を身に付けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・自身・水害・災害は何時と想定出来ないで、職員は避難出来る方法を身に付け、地域や近隣の協力体制も築けており、車椅子が多いため特に、お隣・お向かい宅の協力が築けています。ご家族にはハザードマップを渡し災害発生時用に備品の用意もされています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねないよう、声かけや支援の方法を指導しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択・自己決定が出きよう声かけの方法を変えながら日々働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の生活スタイルを大切にし、希望を取り入れ、1日1日を利用者のペースに合わせた支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の身だしなみが、きちんと出きる様、髭剃り、顔そり等、保清を日頃より行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	軽度の利用者は盛り付けや食器の片付けなどを職員と話をしながら行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人個人の嚥下状態を把握し、その人その人に合わせて、刻み食・ミキサー食などを提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの実施にて、口腔内の観察や清潔保持に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りトイレで排泄が出きるように促し、おむつにする段階も職員間で話し合いしながら、排泄時間の把握、排泄リズムを把握し、自立に向けた支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲み物の工夫を行っているほか、日頃から乳酸菌を取り入れる等個々に応じた便秘予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しめるよう、時間や日程は事業所の方で決めています。当日の声かけで、状態や気分によって変更する事も有ります。入浴されたときは気持ち良かった、表情が良かったりを確認し個々に沿った支援をしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢・疾患を持っている利用者は、午前・午後を休息して頂いています。医師やご家族とも相談しています。足浴を実施し、心地よい睡眠を促せるよう日々支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員には、日頃より薬の把握に努めるよう指導をしている。また、薬の変更や副作用等の説明を薬剤師から伝達される為、職員全員が把握できるよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が好きな事、得意な事を把握するとともに、日常生活の中で可能な限り、楽しく好きな事が出来る時間が持てるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家に帰られる機会があったり、ご家族と外出する機会があったり、職員と買い物へ出かけたり、希望がかなえられるよう努めています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がある利用者は自分で、お財布を持っています（数千円程度ご家族と話し済み）殆んどの利用者は事業所で管理をしています。希望に応じて買いたいものが買える環境となっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と気軽に電話をしたり、お手紙や年賀状のやり取りも自由にして頂いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	あくまでも自宅の延長と思えるように、その人がその人らしく暮せるように、共有の空間では、テレビのつけっぱなしは騒音に繋がる為、必要に応じてつけ、ベランダからの直射日光が当たらないようカーテンをし、温度・湿度にも配慮しています。また季節感を採り入れる為、行事に応じて飾りつけ、芳香剤の香りを変える等、心地よく過ごせるように工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に動ける利用者は、居間、居室、台所、ソファ、廊下奥から外を眺める、気の合う利用者は食卓で、お喋りをし思い思いに過ごせる居場所の工夫をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、その人らしい部屋になっており、以前より使われていたタンスの持ち込みや仏壇など自由に可能となっています。利用者が居心地よく暮せるように工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る事、出来ない事を見極め、安全に生活出来るよう支援しています。		